『未来志向なふるさと納税の使い道を考える』これまでの歩み

町への提言 向けた取り組みを進めていきます 今後、 町は提言を受けて実現に (平成30年3月予定

現に向けて「提言書」を作成し町

最優秀賞 (40歳〜64歳の部)

使い道を、 件の応募があり、

が決まりました。これを基に、 の「ふるさと納税の使い道」候補 公募しました。町内外から107 に対して「どのように使うか」 「ふるさと納税の使うべき対 町在住者や町出身者に 審査の結果15件

の

第2回錦江町『未来』 創造コンテストの実施

錦江町ふるさと納税 寄付条例を制定

基に「錦江町ふるさと納税寄付条 定した「6つの使うべき対象」を 平成29年9月、 として定めました。 百人委員会で決

⑤来訪者 会の担い手 ①子ども **⑥移住希望者** ③事業者

②若者を中心とした社

つの使うべき対象」が決まりまし から約5ヵ月間の協議を経て、 の使い道』について平成29年3月 の方が、『未来志向なふるさと納税

錦江町版百人委員会

公募により選ばれた8名の町民

最優秀賞(19歳~39歳の部)

前田

正人さん(上原自治会)

|優秀賞(65歳以上の部

ワイン葡萄の栽培

提案「高齢者」=交流人口の源

濵田

隆介さん(昇陽自治会

兄弟送迎など) 病院付添い、

提案「事業者」=本土最南端の

先端型の教育改革を!』

『未来を作る

子どもたちの都会と

地方の教育格差をなく

●使うべき対象 「子ども」

●提案した理由

現在の授業のやり方をITを利用しすこし変 えていくことで、今後の課題先進国である日本 を支える優秀な人材の輩出に貢献でき、錦江町 で子育てしたくなるという評判の町にできるの では。

●期待する成果

子どもたちの学力向上+人生に必要なスキル 取得、先生の労働負荷軽減。長期的にみれば、 その子どもたちの一部が町を支える人財になっ てくれることが期待される。

●いま自分がやるべきこと

提案内容自体を推進するためにはコスト面や 現場面で様々な方にご理解をいただく必要があ る。共有(勉強会)みたいなことで検討するよ うなことは可能かとおもいます。



●使うべき対象 「子ども」

小児科相談所を』

●提案した理由

子育てするうえでは、地域にかかりつけの小児 科の先生がいてくれるということがとても心強い 存在になってくれます。しかし、小児科の先生に 移住していただくことは難しいかもしれないので、 遠隔診療などでちょっとしたことでも身近で気軽 に相談できる仕組みがあれば、とても安心して子 育てができると思います。

●期待する成果

- ・子育て世代にとって、安心感が得られる。
- ・子育て世代の移住や定住にもつながる。

●いま自分がやるべきこと

・医療以外にも子育てしやすい環境を自分達でも つくる。(ママ友サークルなど)

- ・子どもたちの急な体調変化などに対応してもらえる。

船迫小百合さん

優秀賞(40~46歳の部)

提案「子ども」

=保育サポータ

―制度の設立。

(自宅での預か 買い物サポー

- ・子どもたちに地域のことを好きになってもらう。

今 村

学さん(馬場自治会)

に学びの機会を提供する。 た場所を整備し、子どもや若者

提案「子ども」=町内の学生向

け(小学生~高校生まで)の無料塾

德永

いものを作る。

マッチングさせて他に例を見た の資源である高齢者と空き家を である宿泊施設を、当町の最大

豊さん(皆倉自治会)

▶提案「子ども」「若者」「事業者_

「高齢者」「来訪者」=錦江町

多くの方に伝え、 美しい素晴らしい自然、 世界自然遺産 この感動を

3

とを目的に写真コンクールを開催 登録されるようPR活動を行うこ

西中川

響さん(錦江中3年

提案「来訪者」=空き家をリフ

オームして、宿泊施設などに変える

時吉 健二さん (昇陽自治会)

提案「子ども」=知恵が詰まっ

優秀賞(19~39歳の部)